

2022/1.19 生物多様性国家戦略小委員会

生協における 生物多様性保全の取り組み

日本生活協同組合連合会
社会・地域活動推進部
サステナビリティ推進G
新良貴 泰夫



日本生活協同組合連合会は 全国の生協が加入する全国連合会



生協はどんな事業を展開している？

日本生協連

- ✓ コープ商品事業（コープ商品の開発、全国の生協への卸）
- 通販事業

約5,400
品目



地域生協（一例）

- ✓ 商品事業(産直、プロジェクト)
- 店舗・宅配事業
- 共済事業
- 福祉事業
- ✓ 環境の取り組み
- 食の取り組み
- 平和の取り組み



本日お話しすること

日本生協連

- ①責任ある調達
- ②エシカル消費
の推進

地域生協（一例）

- ③産直事業
- ④生物多様性保全プロジェクト
- ⑤環境保全活動

CO・OP商品の「責任ある調達基本方針」

✓ 2021年5月、日本生協連CO・OP商品「責任ある調達基本方針」を策定・公表

人権や環境等の認証
要件を備えた第三者
認証商品

NGOとの協力による
持続可能な生産支援

農薬や化学肥料の使
用節減

プラスチック・紙問
題への対応、食品口
ス削減

(2) 環境配慮、人権尊重等に配慮して生産された農林水産物や、それらを原料とした商品の取り扱い拡大

① 人権や環境等に関わる認定要件を備え、日本生協連として採用を判断した第三者認証を取得した商品の取り扱いを推進します。

(MSC、MEL、ASC、BAP、FSC®、レインフォレスト・アライアンス、RSPO、フェアトレードなど)

② 農薬や化学肥料の使用節減の観点から、有機栽培品、特別栽培品の取り扱いを推進します。

③ 資源の有効活用や資源循環に取り組んだ商品の取り扱いを推進します。

(再生原料の活用、規格外原料や低利用品種・部位の活用など)

(3) 生産者やNGOなどとの協力関係構築と持続可能な生産体制の維持・向上

① 国内産品の利用を進めるとともに、会員生協との協同により生産者・組合員の交流を積極的に進めて、日本の農林水産業を持続可能にすることに貢献します。

② NGOなどと適切な協力関係を築きながら、持続可能な生産に取り組む意思のある国内外の生産者を支援する取り組みを行います。



左記は抜粋
詳細は下記より

CO・OP商品の2030年目標

- ✓ 「責任ある調達基本方針」のもと、社会変革を前提とした「あるべき姿」からバックキャストिंगして2030年に向けた持続可能な調達目標を設定

分野	目標
農産	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要な農産原材料の産地を指定した仕様指定商品および生鮮農産物について、GAPを導入した生産者からの調達構成比を100%とします。海外農産物はGFSI認証スキームのGAP、国内農産物は国際水準GAPとします。 ● 輸入生鮮農産物における有機JAS、レインフォレスト・アライアンス認証品の調達構成比を45%以上とします。
水産	<ul style="list-style-type: none"> ● 水産物を主原料とする仕様指定商品および生鮮水産物について、MSC/ASC認証商品の拡大を重点に、GSSIが認定した認証スキームによる認証品の供給額構成比を50%以上とします。
紙・パルプ	<ul style="list-style-type: none"> ● CO・OP商品に使用する紙（製品・容器包装・段ボール材）の100%を再生原料または森林認証品による調達原料とします
パーム油	<ul style="list-style-type: none"> ● CO・OP商品に使用するパーム油の100%を持続可能なパーム油認証品とし、そのうち50%以上を物理的認証油の調達とします
プラスチック	<ul style="list-style-type: none"> ● 容器包材のプラスチックを2016年対比25%削減します。 ● 再生プラスチックと植物由来素材プラスチックの活用を進め、使用率を合計で50%以上とします。
食品ロス	<ul style="list-style-type: none"> ● CO・OP商品に由来する食品廃棄物を2018年度比で50%以上削減します

生協は組合員へエシカル消費を推進

「エシカル消費」とは、「誰かの笑顔につながるお買い物」



もし、大多数の消費者が「エシカル」な価値を求めるようになったら…
提供する側も、「エシカル」な商品やサービスに変わっていきます

未来へ続く世界の実現のために私たち生協は、エシカル消費に積極的に取り組んでいきます。

「エシカル消費対応商品」の展開

- ✓ 日本生協連は、組合員がエシカル消費を身近に感じられ、実践しやすくできるように商品開発を行っている⇒「エシカル消費対応商品」

認証ラベル付き商品



総供給高
2,009億円

生協独自マーク商品

- 「産直」等を通じて生協が重視してきた日本農畜水産業応援。組合員の関心も高く、独自マークで訴求



寄付金付き商品

- 商品の購入1個につき〇円を、生協として重要と考える取り組みを推進する国際機関やNPOに寄付



エビ養殖業
改善プロ
ジェクト



組合員の認知と共感をより高めるために… 「コープサステナブル」

- ✓ 「コープサステナブル」は、サステナブルな原材料を主原料として使用した商品シリーズ
- ✓ さまざまな認証ラベルが登場する中、共通のロゴをパッケージに表示して視認性を高め、売場でより多くの組合員が「見つけて、選べる」ようにすることが狙い



海の資源を守る



森の資源を守る



Organic



エシカル消費の普及方法

読み物

気候変動問題や
生物多様性の危機
などを背景に、
コープのエシカルを紹介



動画

コープの
エシカルを動画で解説 <https://youtu.be/bYMaE6U51m4>



キャンペーン

店舗でエシカル消費対応商品を見つかるキャンペーンなどが展開されている



学習活動

各生協で「エシカル」を
テーマにした学習が行われて
いる



生協における「産直」

- ✓ 産直の考え方は、全国の生協でそれぞれ異なるものの、「産直三原則」が1980年代より多くの生協で取り入れられている
- ✓ 現在は日本生協連・産直事業委員会が、あるべき生協産直のあり方として「生協産直基準（5基準）」を提唱している

産直三原則

- 1.生産地と生産者が明確であること
- 2.栽培、肥育方法が明確であること
- 3.組合員と生産者が交流できること

生産者と
組合員の
交流会

生産者と子ども
たちの産地
視察・研修会

点検・
確認会



生協産直基準（5基準）

- 1.組合員の要求・要望を基本に、多面的な組合員参加を推進する
- 2.生産地、生産者、生産・流通方法を明確にする
- 3.記録・点検・検査による検証システムを確立する
- 4.生産者との自立・対等を基礎としたパートナーシップを確立する
- 5.持続可能な生産と、環境に配慮した事業を推進する

【参考】コープデリ連合会における産直

コープデリの「産直」は、生産者と組合員が顔の見える関係をつくり、安全性が確保され、おいしさと環境配慮を兼ね備えた、生い立ちがはっきりわかる農水畜産物をお届けする取り組みです。

この産直の取り組みを通じて、持続可能な農水畜産物の生産を応援することを目指しています。（コープデリWEBサイトより引用）

産直商品に携わる人の想い



「産直 小松菜（有機栽培）」～おすすめ！コープの商品～

詳しくはこちら>



「産直 れんこん」～おすすめ！コープの商品～

詳しくはこちら>



「CO・OP産直 和歌山県産 清見オレンジで作ったドライフルーツ」～おすすめ！コープの商品～

詳しくはこちら>



「CO・OP産直 岩手県産わかめ」～おすすめ！コープの商品



「産直 ベビーリーフ（有機栽培）」～おすすめ！コープの



「産直 えのき」～おすすめ！コープの商品～

出所：コープ
デリ連合会
<https://mirai.coopnet.or.jp/product/product2018/sanchoku/>

佐渡トキ応援お米プロジェクト(コープデリ連合会)

- ✓ いくつかの生協では、商品購買を通じて生物多様性保全に資するプロジェクトを支援している
- ✓ 一例としてコープデリの「佐渡トキ応援お米プロジェクト」を紹介



さまざまな生きものと共生できる
米づくりをささえたい
佐渡トキ応援お米プロジェクトスタート！

佐渡米の生産者たちは、農薬・化学肥料を減らすことで、さまざまな生きものが田んぼにくらすことができる米づくりをはじめました。手間がかかり収穫量も減る、生産性のよくない農業です。

田んぼの生きものを絶やさぬように、魚道・江・ビオトープなどの設備をつくったり、冬の間も田んぼに水をはったりしています。生きものがくらすことができる環境を維持するための費用もかかります。

コープデリは1994年から佐渡米を販売し、生産者と親交を重ねてきました。佐渡米を食べて応援したい。そんな想いのもと、佐渡トキ応援お米プロジェクトを2010年からスタートしました。CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリ、その加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付する取り組みです。佐渡の美味しいお米を食べることが、トキと共生する米づくりをささえることにつながります。

生協における環境保全活動の展開

植樹や森づくり

- 基金を設置して森づくりをする、組合員から参加者を募り植樹を行うなど、さまざまな形態で実施されている



藻場の再生事業

- 生態系の回復を図りながら、地域の漁協、NPO法人などと連携を深めることを目指している



海浜や湖の清掃

- 海洋プラスチックゴミの問題を受けて活発化。学習会と合わせて実施される例も



その他にも・・・

- 水質改善活動、里山の休耕地解消、山の保全など、地域に応じた多種多様な環境保全活動が取り組まれている



ご清聴ありがとうございました。